

2006年9月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、東半球の極付近に負偏差、その周囲に正偏差と環状パターンが明瞭で、特にカムチャツカ半島東海上とカナダ北部の正偏差、米国中部から東部にかけての負偏差が顕著だった。極東域ではバイカル湖付近からオホーツク海にかけて正偏差に覆われたが、30°N 付近より南では負偏差に覆われた。

熱帯の対流活動は、インド洋赤道域の南東部からインドネシア西部と南米北部からメキシコ湾にかけて不活発で、南東部を除くインド洋熱帯域と西部太平洋熱帯域で活発だった。フィリピンとその東海上では、8月に引き続き9月前半までは対流不活発だったが、アジアモンスーンの北進に伴い、9月後半には活発となった。また西部太平洋域では下旬に、赤道季節内振動(MJO)の活発な位相が通過した際、対流活動の強化、北進が見られた。北西太平洋では台風が中・下旬に3個発生した。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、インド洋西部の赤道域とベンガル湾南部に高気圧性循環偏差、アラビア海北部に低気圧性循環偏差が見られた。下層のモンスーン循環については、上旬は平年並、中旬以降に強まり月末まで強い状態が続いた。

SOI (南方振動指数) は-0.5となった。

世界の天候

- ① 東シベリアの高温
- ② 朝鮮半島から華北の少雨
- ③ モンゴル東部から中国北東部の高温
- ④ モンゴル西部から中国北西部の少雨
- ⑤ ロシア北西部の多雨
- ⑥ ヨーロッパの高温
- ⑦ ヨーロッパ中部の少雨
- ⑧ トルコの多雨
- ⑨ 紅海周辺の高温
- ⑩ アフリカ西部の多雨

サヘル域では、大雨による洪水で少なくとも4人が死亡したほか、農作物や家畜への被害が伝えられた。

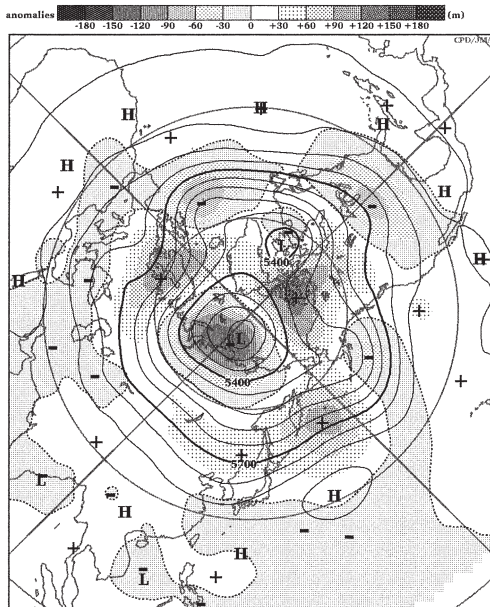
- ⑪ 南アフリカ西部の高温
- ⑫ メキシコ西部の多雨

メキシコでは、2つのハリケーンの影響などによる大雨で少なくとも30人が死亡したと報じられた。

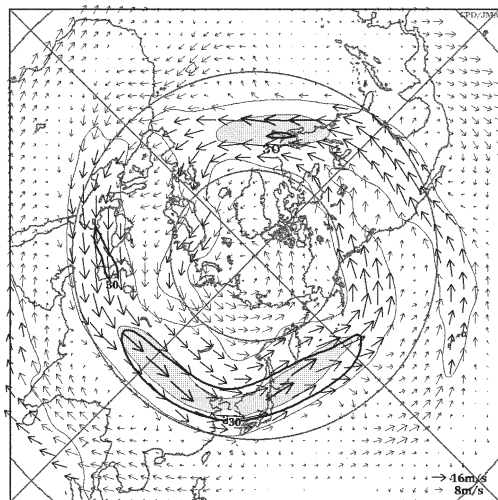
- ⑬ ブラジル北西部の少雨
- ⑭ オーストラリア南部の少雨

シドニー郊外などでは、山火事により1人死亡、7棟の住宅に被害が出ていると伝えられた。

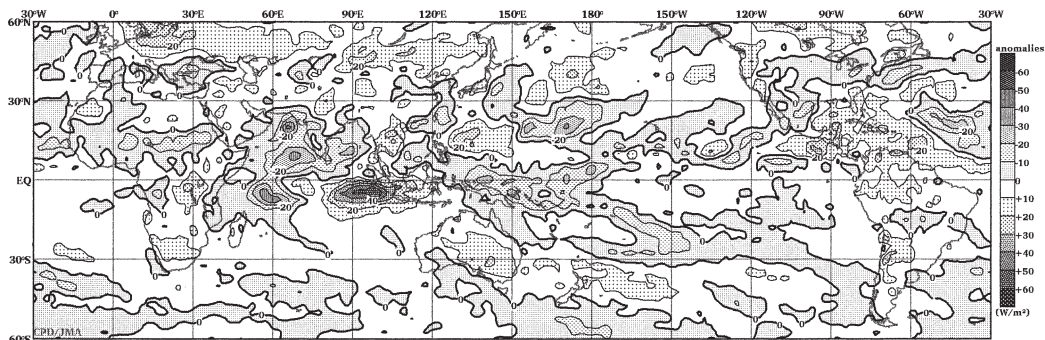
(気象庁地球環境・海洋部気候情報課 宮岡健吾)



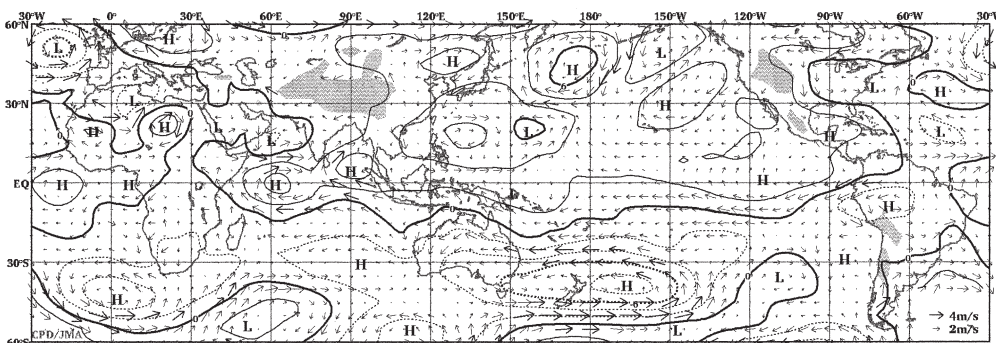
2006年9月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



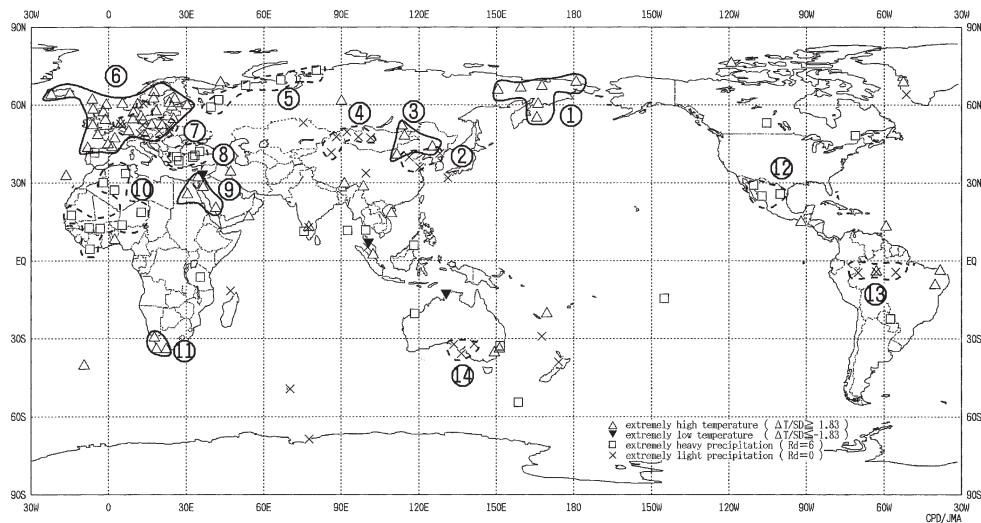
2006年9月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は15 m/s, 陰影部は30 m/s以上. 太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す. 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年9月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA, 平年値は1979~2000年のデータから作成。



2006年9月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、平年値は1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。



2006年9月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している。